

# 令和 6 年度 事業 報告

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日

財団では、伊豆沼・内沼の自然環境の保全とその活用を総合的に推進するため、教育的効果の向上をめざしつつ、地域活性化への寄与を目的に事業を展開してきた。

理事長が 15 年ぶりに交替し、これまでの取組みを活かしながら、新たな視点を加えた活動を展開すべく、さらなる共同研究の発展や企業との連携事業等に取り組んだ。

令和 6 年度は「伊豆沼・内沼自然再生全体構想」第 2 期計画の 5 年目にあたり、成果を確実なものとするため、伊豆沼・内沼自然再生協議会における議論を踏まえ、学術的知見に基づく評価・検証を行い、見直しを図りながら保全をすすめる「順応的管理」を基本とした植生管理や外来魚防除などの事業を継続し、沼の環境改善に取り組んだ。

こうした活動により、生物多様性の回復は着実に進んでおり、クロモをはじめとする沈水植物の拡大をはじめ、絶滅危惧ⅠA 類のゼニタナゴの繁殖、魚介類を採食するカモ類であるミコアイサの増加が引き続き認められた。保全活動の基盤となる各種の調査・研究は、東京大学などの各種研究機関や団体等と連携しながら中長期的な視点で継続した取組みを行っており、その成果として論文をまとめた伊豆沼・内沼研究報告 18 巻を発刊した。

普及啓発活動では、自然体験講座やクリーンキャンペーンなどを着実に行ったほか、バス・バスターズの活動も引き続き推進した。さらに、カメラ付き GPS ロガーを装着したハクチョウの位置情報と画像をリアルタイムで市民に公開し、市民によるハクチョウ見守り体制を構築する国内初の取組みである、国際共同プロジェクト「スワンププロジェクト」によって、普及啓発を前進させ、全国レベルで市民科学の底上げに取り組んだ。

自然再生事業では、水生植物の植栽、埋土種子による発芽試験・系統保存などを行うとともに、クロモやフサモ類などの水生植物の増殖・移植に取り組んだ結果、水草群落が拡大し、沈水植物の回復に向けて大きく前進した。また、湖岸浸食によって失われたエコトーン（浅瀬）の造成を行った結果、マコモなどの抽水植物群落など植生回復が認められたほか、サギ類などの鳥類の利用も確認され、改めてその有効性が確認できた。さらに、沼を広く覆ったヒシ・ハスによる水中の酸欠を防止するため、沼南部においてヒシ・ハスを中心とした植物の大規模刈り取りを実施し、溶存酸素の改善を図ったほか、秋に飛来するマガンのねぐらを創出した。カラスガイの増殖・移植事業は難しい諸条件を乗り越えるため、一歩ずつ取組みを進めている。

外来魚防除活動では、卵や稚魚を対象とした人工産卵床、稚魚すくいによる駆除、成魚を対象とした電気ショッカーボートなど、オオクチバスの生活史全体を対象としたこれまでの取組みを継続した結果、オオクチバスの増殖を抑えることができている。一方で、絶滅危惧種のゼニタナゴについては繁殖も確認された。

水生植物園は、企業の CSR 活動により湿地の保全が薦められたほか、遊歩道の整備や植物を解説した看板の設置など、環境教育のフィールドとしての機能を向上させた。

センターニュースの毎月発行など、情報発信に努めたほか、各種学校を対象に体験活動や講話を行い、自然保護思想の普及・啓発活動にも努めた。

指定管理者となっている「宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター」は、普及・啓発活動の場として有効活用するとともに、ラムサール条約湿地の連携を図るみやぎラムサールトライアングル関連事業や栗駒山麓ジオパーク関連事業との連携を図った。

## I 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の運営

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター等の施設管理及び各種事業を円滑に推進するとともに、資産の適正かつ効率的な運用管理に努めた。

併せて、伊豆沼・内沼の環境保全活動を担う中核団体として、各種団体との連携を図り沼の環境保全と自然保護思想の普及啓発に努めた。

### 1 会議等の開催状況

#### (1) 評 議 員 会

- 1) 決議の省略による決議（第1回臨時評議員会）  
決議があったものとみなされた日 令和6年4月9日  
審議事項等 評議員（1名）の選任について  
理 事（2名）の選任について
- 2) 決議の省略による決議（定時評議員会）  
決議があったものとみなされた日 令和6年6月12日  
審議事項等 令和5年度事業報告及び収支決算について  
令和6年度事業計画及び収支予算について  
理事長及び常務理事の職務執行状況について
- 3) 決議の省略による決議（第2回臨時評議員会）  
決議があったものとみなされた日 令和6年7月31日  
審議事項等 評議員（2名）の選任について  
理 事（1名）の選任について

#### (2) 理 事 会

- 1) 決議の省略による決議（第1回臨時理事会）  
決議があったものとみなされた日 令和6年4月16日  
審議事項等 理事長の選任について  
副理事長の選任について  
事務決済規程の一部改正について
- 2) 第1回定時理事会  
開 催 日 令和6年5月22日 午前10時  
場 所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター  
審議事項等 令和5年度事業報告及び収支決算について  
令和6年度第1次補正予算（案）について  
理事の利益相反取引の承認について  
令和6年度定時評議員会の招集について  
理事長及び常務理事の職務執行状況について
- 3) 決議の省略による決議（第2回臨時理事会）  
決議があったものとみなされた日 令和6年7月19日  
審議事項等 臨時評議員会の招集について
- 4) 第3回臨時理事会  
開 催 日 令和6年11月14日 午前10時  
場 所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター  
審議事項等 令和6年度第2次補正予算（案）について  
令和6年度上半期事業の執行状況について  
理事長及び常務理事の職務執行状況について
- 5) 決議の省略による決議（第4回臨時理事会）  
決議があったものとみなされた日 令和7年1月17日  
審議事項等 事務局職員給与等支給規則の一部改正について
- 6) 第2回定時理事会  
開 催 日 令和7年3月25日 午前10時  
場 所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター  
審議事項等 令和6年度第3次補正予算（案）について  
令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）について  
事務局職員給与等支給規則の一部改正について  
臨時職員取扱規程の一部改正について  
一般作業員取扱規程の一部改正について  
理事長及び常務理事の職務執行状況について

#### (3) 決 算 監 査

- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 開 催 日 | 令和6年5月14日 午前10時      |
| 場 所   | 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター |
| 内 容   | 令和5年度収支決算の監査         |

(4) 担当課長会議

構 成 員

栗原市環境課長・田園観光課長、登米市環境課長・観光物産戦略課長、  
宮城県自然保護課副参事兼総括課長補佐、財団職員

1) 第1回事務局担当課長会議

開 催 日 令和6年5月17日

場 所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

協 議 事 項 令和6年度第1回定時理事会提案事項について

2) 第2回事務局担当課長会議

開 催 日 令和6年11月8日

場 所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

協 議 事 項 令和6年度第3回臨時理事会提案事項について

3) 第3回事務局担当課長会議

開 催 日 令和7年3月18日

場 所 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

協 議 事 項 令和6年度第2回定時理事会提案事項について

2 資産の運用管理

資産運用については、事業計画及び資金計画に基づき、安全かつ高利率の金融商品による運用に努めた。

3 自然保護基金及び財団運営資金寄付金の造成等

(1) 伊豆沼・内沼自然保護基金

伊豆沼・内沼の自然環境保全のため各種事業を推進するにあたり、財政基盤の確立が課題となっている。このためホームページ等を活用し、個人・団体等からの募金を募り、基金の造成・拡充に努めた。

◇令和6年度自然保護基金実績

| 区 分                 | 金 額 (円)     | 摘 要     |
|---------------------|-------------|---------|
| 団 体 (会社)            | 0           |         |
| 個 人                 | 140,000     | 4 名     |
| 募 金 箱               | 456,285     | センター内募金 |
| 合 計 (A)             | 596,285     |         |
| 令和5年度末残高 (B)        | 266,868,908 |         |
| 令和6年度末残高<br>(A + B) | 267,465,193 |         |

(2) 伊豆沼・内沼環境保全財団運営資金寄付金

低金利の長期化に伴い、自然保護基金による運用益（利息）のみでは、自主事業の展開が厳しい状況となったことから、平成15年度に新たに設立したもの。

令和6年度財団運営資金寄付金は、KDDI株式会社東北総支社より300,000円、現物寄付として、GPSロガー5台（白鳥用GPSカメラ）1,129,275円があった。

4 大学法人・民間団体等助成金の活用

令和6年度助成金等の獲得はなかった。

5 国、県、関係2市等との連携

国（環境省）との関係においては、ブラックバス駆除関連事業及び国指定伊豆沼鳥獣保護区管理センターの管理などにおいて連携を図った。また、宮城県とは伊豆沼・内沼自然再生事業などにおいて連携した事業の取り組みを行った。

そのほか、登米・栗原両市をはじめ、伊豆沼漁協や地域住民、NPO法人及び学識経験者などと連携し事業を推進した。

6 サンクチュアリセンターの連携

登米市・栗原市を通じて情報の共有を行っている。今後、3館それぞれの機能を活かした自然環境保全の普及啓発に努める。

7 情報発信

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースを毎月発行したほか、ホームページや各種報道機関を活用し、水鳥などの自然情報や調査・研究成果など、最新の情報発信に努めた。

## II 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター管理運営事業

### 1 施設の保守管理及び運営

令和6年度は、新たな指定管理期間の1年目となり、良好な施設環境を維持しつつ、自然保護思想の普及啓発の場として、施設の有効活用を図るとともに、経費の節減を図りながら、安全かつより効率的な管理運営に努めた。

専門家を配置し、より充実した展示内容となったセンターについて広く県内外に周知し入館者数の増加を図るほか、栗原・登米両市のサンクチュアリセンターとの連携を図りながら、環境教育の場として活用した。

また、県が施行する全館照明のオールLED化の設計業務について、支援・協力を行った。

指定管理者として「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用と保守に努め経費の節減等も図りながら適切な管理を行った。

- (1) 日常的に施設、設備及び展示品等の見回り点検を実施し、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。
- (2) 施設管理に関する法令を遵守するとともに、経費の節減に努めた。また、外部委託している清掃業務、消防設備保守点検、空調設備保守点検、重油タンク清掃業務、貯水槽清掃業務、エレベーター保守点検及び機械警備業務については、履行確認の徹底に努めた。
- (3) 限られた人員（正職員4名、臨時職員5名）による業務となるが、職員が展示物や自然保護の重要性などについて解説を行うなど、来館者に積極的に対応した。
- (4) 研修室は、管理運営に支障のない限り、伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効に活用した。
- (5) 利用者の利便性と入館者の増加に向けて、季節毎に展示物の配置を工夫するとともに、館内には観葉植物等を配置するなど、うるおいのある空間づくりに努めた。
- (6) 感染防止対策として、換気に配慮した他、入り口2カ所に消毒液を設置している。
- (7) 栗原市クーリングシェルターとして令和6年8月27日から指定を受け、10月23日まで対応した。

### 2 管理運営の人員体制等

#### (1) 運営・人員体制及び配置

| 職 名       | 氏 名     | 休 日 設 定  | 備 考        |
|-----------|---------|----------|------------|
| 理 事 長     | 西 村 修   | な し      | 非常勤        |
| 副 理 事 長   | 砂 金 義 徳 | な し      | 非常勤        |
| 事 務 局 長   | 白 鳥 まゆみ | 月・土日交代勤務 | 常勤(常務理事兼務) |
| 総 務 課 長   | 菊 地 繁 徳 | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 研 究 室 長   | 嶋 田 哲 郎 | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 主 任 研 究 員 | 藤 本 泰 文 | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 臨 時 職 員   | 速 水 裕 樹 | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 臨 時 職 員   | 細 川 幸   | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 臨 時 職 員   | 白 鳥 晃   | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 臨 時 職 員   | 丹 野 浩   | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |
| 臨 時 職 員   | 千 葉 享 子 | 月・土日交代勤務 | 常 勤        |

#### (2) 利用状況

上半期の入館者数は、4月から9月まで昨年度を上回った。8月は令和5年7月の増水による冠水からのハスの回復が十分でなかったため、昨年度より85人増にとどまった。上半期全体では昨年度より1,301人の増加となった。

また、下半期は2月、3月に若干減少したものの全体的に増加となり、年間で2,194人増の昨年入館者数の106%となった。

◇令和6年度宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター入館者

| 区分  | 令和6年度    | 令和5年度    | 前年度との比較        |
|-----|----------|----------|----------------|
| 4月  | 1, 360人  | 1, 321人  | 39人増(102%)     |
| 5月  | 1, 787人  | 1, 707人  | 80人増(104%)     |
| 6月  | 1, 839人  | 1, 681人  | 158人増(109%)    |
| 7月  | 3, 184人  | 2, 566人  | 618人増(124%)    |
| 8月  | 3, 980人  | 3, 895人  | 85人増(102%)     |
| 9月  | 2, 102人  | 1, 781人  | 321人増(118%)    |
| 10月 | 3, 127人  | 2, 700人  | 427人増(115%)    |
| 11月 | 4, 052人  | 3, 824人  | 228人増(105%)    |
| 12月 | 3, 515人  | 2, 909人  | 606人増(120%)    |
| 1月  | 5, 347人  | 5, 269人  | 78人増(101%)     |
| 2月  | 3, 696人  | 3, 732人  | 36人減(99%)      |
| 3月  | 2, 172人  | 2, 582人  | 410人減(84%)     |
| 合計  | 36, 161人 | 33, 967人 | 2, 194人増(106%) |

※ 開館日数 304日(休館日数61日) 1日平均119人

※ 下水道への理解・関心を深めるためのコミュニケーションツールとして、宮城県東部下水道事務所が発行しているマンホールカードの配布依頼を受け、令和5年1月28日から配布を行っている。

令和6年度の配布枚数は、1224枚(県内433枚、県外791枚)

### 3 施設運営等に関する事業等

#### (1) 沼辺環境整備

##### 1) 水生植物園の維持管理及び整備

水生植物園は、オオトリゲモやイトトンボ類など、沼本体では減少した動植物を観察できる貴重な場所となっている。園内の池の水管理や除草、浸食防止対策などの適切な施設管理を行った。また、園内での釣りを禁止し、釣り糸やルアーなどによる事故防止に努めると同時に、随時巡視を行ったほか、遊歩道の整備を行った。そのほか、沼の保全対策に向けた技術開発試験を園内の池を用いて実施した。

##### 2) 買上地の維持管理及び整備

沼辺にある買上地の除草作業を実施し、植物の繁茂による藪地化抑制を図った。また、ヨシ群落の保全やゴミの撤去を目的に、伊豆沼漁業協同組合及び土地改良区等と連携し、令和7年3月1日に野火を実施した。

#### (2) ハス田の維持管理

堤外地のハス田の水管理や除草を行うなど、保存田の維持管理を行った。

#### (3) ヤナギ群落の刈り取り

湖岸に生えるヤナギ群落について、倒伏による交通への支障が生じないように、適宜伐採した。

#### (4) 周辺環境整備

サンクチュアリセンター敷地内(駐車場も含む)及び隣接する若柳ラムサール公園内の除草等を月1回実施し、利用者の利便性の向上を図った。

#### (5) 情報の発信等

ホームページやセンターニュース、マスコミ等を活用し、伊豆沼・内沼の自然情報やイベント情報などを広く発信するとともに、ホームページについては新たな情報を随時追加するなど、改善・拡充に努めた。

#### (6) 自然保護思想の普及活動及び学校・各種団体への対応

学校・各種団体等が企画した自然保護思想の啓発に関する事業において、貴重な自然である伊豆沼・内沼の紹介に努めるとともに、活動を積極的に支援した。

1) 研修会・講師等の対応状況

| 年 月 日 | 団 体 名                  | 人 数    |
|-------|------------------------|--------|
| 令和6年  | 宮城大学講義（講義）             | 70名    |
|       | 宮城大学講義（講義）             | 70名    |
|       | 宮城大学講義（講義）             | 70名    |
|       | 宮城県古川黎明中学校・高等学校        | 22名    |
|       | 栗原市立金成小中学校（4年生）        | 43名    |
|       | 栗原市立鶯沢小学校（3年生）         | 8名     |
|       | 登米市立新田小学校（3年生）         | 23名    |
|       | 宮城いきいき学園登米・栗原校（保全活動）   | 10名    |
|       | 栗原市立志波姫小学校（2年生）        | 42名    |
|       | 宮城県社会教育協会（講演）          | 71名    |
|       | 東北大学大学院歯学研究科           | 41名    |
|       | 宮城県環境対策課インターンシップ       | 4名     |
|       | 若柳上町自治会                | 15名    |
|       | 宮城県仙台二華高等学校（WEB講義）     | 260名   |
|       | 宮城県環境対策課インターンシップ       | 4名     |
|       | 栗原市立宮野小学校1・2年生         | 23名    |
|       | 新潟国際情報大学3年生            | 14名    |
|       | 栗原市立栗原南中学校1年生          | 41名    |
|       | 石巻専修大学                 | 36名    |
|       | 国立花山青少年自然の家            | 40名    |
|       | 宮城県仙台二華高等学校（体験学習）      | 105名   |
|       | 栗原市立一迫小学校（4年生）         | 46名    |
|       | 宮城大学フィールドワーク           | 15名    |
|       | 栗原市立志波姫小学校（3年生）        | 42名    |
|       | 宮城いきいき学園（講義）           | 20名    |
|       | 宮城県ガンカモ類生息調査研修会（講義）    | 50名    |
|       | 大正大学フィールドワーク           | 13名    |
|       | 栗原市立築館小学校支援学級          | 9名     |
|       | 栗原市立築館小学校支援学級          | 12名    |
|       | 東北大学フィールドワーク           | 30名    |
|       | お茶の水女子大学付属高等学校（WEB講義）  | 5名     |
|       | 栗原市立若柳小学校3年生           | 81名    |
|       | 築館聖マリア幼稚園              | 16名    |
|       | 仙台ECO動物海洋専門学校2年生（講話）   | 50名    |
|       | 登米市立新田小学校（渡り鳥観察）       | 20名    |
|       | 水辺の自然再生共同シンポジウム（東京）    | 70名    |
|       | 伊豆沼・内沼自然保護協会研修大会（講話）   | 196名   |
|       | 仙台ECO動物海洋専門学校（講話）      | 12名    |
|       | 栗駒山麓ジオパーク（罫入り観察）       | 20名    |
|       | （一財）日本気象協会（講演）         | 10名    |
|       | 登米市立新田小学校5年生           | 21名    |
|       | 栗原市立栗駒小学校1年生           | 40名    |
|       | 栗原市立若柳小学校3年生（渡り鳥観察）    | 81名    |
|       | 登米市立東郷小学校5年生           | 29名    |
|       | 仙台第三高等学校（WEB授業）        | 20名    |
| 令和7年  | 北海道滝川高校                | 12名    |
|       | 茨城県下妻市議会公明党議員団         | 2名     |
|       | A S E A N 訪日団          | 40名    |
|       | 新潟湿地都市研究所              | 6名     |
|       | 山形県北村山農村整備課            | 3名     |
|       | 県ラムサール条約湿地市町研修会（講話）    | 4名     |
|       | 東北大学大学院歯学研究科留学生        | 51名    |
|       | 日本白鳥の会新潟大会             | 70名    |
|       | 東北大学セミナー（講話）           | 40名    |
|       | （有）伊豆沼農産ツアー            | 50名    |
|       | 東北地方整備局北上川流域ネットワーク（講話） | 30名    |
|       | 合 計                    | 52 団 体 |
|       |                        | 2,228名 |

## 2) 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、10回開催した。

### ◇令和6年度伊豆沼・内沼自然体験講座

| 回数   | テーマ                   | 開催日    | 参加者数    |
|------|-----------------------|--------|---------|
| 第1回  | 水辺の生き物採集と観察会          | 6月30日  | 17名     |
| 第2回  | 水辺の生き物採集と観察会          | 7月13日  | 11名     |
| 第3回  | 昆虫採集と標本作り             | 7月28日  | 23名     |
| 第4回  | 伊豆沼漁師体験               | 9月1日   | 台風のため中止 |
| 第5回  | 伊豆沼漁師体験               | 9月14日  | 12名     |
| 第6回  | 伊豆沼漁師体験               | 9月29日  | 27名     |
| 第7回  | ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー | 11月9日  | 17名     |
| 第8回  | ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー | 11月24日 | 25名     |
| 第9回  | ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー | 12月15日 | 29名     |
| 第10回 | ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー | 1月11日  | 24名     |
| 合 計  |                       |        | 185名    |

## 3) 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン

美しい湖沼環境を保全するため、クリーンキャンペーン実行委員会と登米・栗原両市の共催により、第63回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを実施した。

第63回 実施日：3月20日 参加者数：608名 ゴミの量：780kg

＜クリーンキャンペーン実行委員会＞

伊豆沼・内沼自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、  
迫川上流土地改良区、伊豆沼沿岸土地改良区、宮城県伊豆沼・内沼サソリセンター  
リ友の会、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

## 4) バス・バスターズの活動（ブラックバス駆除ボランティア）

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティアバス・バスターズの協力を得て、オオクチバスの駆除活動を2004年から行っている。

駆除作業：5月下旬～6月下旬 作業回数：6回 参加延べ人数：136名

## III 環境省「国指定伊豆沼鳥獣保護区管理センター」管理事業

環境省東北地方環境事務所と連携を図りながら、鳥獣保護区管理センターの維持管理を行った。5月から10月にかけては、毎月1回数地内の除草作業を実施し、令和6年度から仕様書に追加された、制札3本の撤去作業も行った。

鳥獣保護区内において2件のオオハクチョウ及びマガンの死亡個体回収協力を行った。

## IV 栗原市若柳ラムサール公園管理事業

栗原市から委託を受け管理している若柳ラムサール公園については、公園内の芝の手入や周辺の除草作業を行い、良好な景観の維持に努めた。また、栗原市の市花となっているニッコウキスゲの株分けを行い、公園北側法面において保護増殖に努めた。

## V 伊豆沼・内沼自然写真展事業

第34回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、写真展開催により伊豆沼・内沼の重要性和環境保全の大切さをアピールした。また、2月、3月に県サソリセンターで全作品の展示を行った。（出品者69名、内入選者20名）

### ＜第33回写真展巡回展示箇所（入選作品のみ）＞

|                   |      |    |      |       |
|-------------------|------|----|------|-------|
| 登米市伊豆沼・内沼サソリセンター  | 令和6年 | 5月 | 2日～  | 5月30日 |
| 登米市役所1階ロビー        | 令和6年 | 6月 | 3日～  | 6月27日 |
| 栗原市役所1階ロビー        | 令和6年 | 7月 | 1日～  | 7月30日 |
| JRくりこま高原駅オアシスセンター | 令和6年 | 8月 | 1日～  | 8月30日 |
| 宮城県庁1階ロビー         | 令和7年 | 1月 | 10日～ | 1月23日 |

## VI 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東京大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。

また、伊豆沼・内沼研究報告18巻に11本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページなどを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、展示品を活用した解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし、対応した。

## 1 調査・検討会への参加状況

| 年    | 月   | 日   | 団 体 名                      |
|------|-----|-----|----------------------------|
| 令和6年 | 4月  | 13日 | 環境省打合せ                     |
|      | 4月  | 26日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会         |
|      | 5月  | 15日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会代表者合同会議  |
|      | 5月  | 15日 | 栗駒山麓ジオパーク管理運営計画策定委員会       |
|      | 5月  | 15日 | 青森県平内町打合せ                  |
|      | 5月  | 16日 | 宮城県北部土木事務所打合せ              |
|      | 5月  | 23日 | 自然再生協議会 事務局会議              |
|      | 5月  | 30日 | 宮城県自然保護課打合せ                |
|      | 5月  | 30日 | 東京大学（海津准教授）ヒシ刈りロボット（～6月2日） |
|      | 5月  | 31日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会総会           |
|      | 6月  | 7日  | ジオパーク学術研究等奨励事業研究助成審査会      |
|      | 6月  | 27日 | 山形大学（横山教授）調査               |
|      | 7月  | 3日  | 宮城県自然保護課打合せ（WEB）           |
|      | 7月  | 4日  | 東京大学（海津准教授）ヒシ刈りロボット（～7月6日） |
|      | 7月  | 5日  | 国土館大学打合せ                   |
|      | 7月  | 11日 | 石巻専修大学打合せ                  |
|      | 7月  | 18日 | 宮城県東部土木事務所打合せ              |
|      | 8月  | 19日 | 環境省打合せ                     |
|      | 8月  | 24日 | （株）エイト日本技術開発打合せ            |
|      | 8月  | 30日 | 伊豆沼・内沼ワイズユース情報交換会          |
|      | 8月  | 31日 | 東京大学（水野准教授）調査              |
|      | 8月  | 2日  | 世界谷地湿原保全作業                 |
|      | 8月  | 6日  | 東北地方農政局打合せ                 |
|      | 8月  | 7日  | 自然再生協議会学識者意見交換会            |
|      | 8月  | 8日  | 宮城県希少野生動植物調査会              |
|      | 8月  | 20日 | 宮城県自然保護課打合せ                |
|      | 8月  | 22日 | 第1回栗原市環境審議会                |
|      | 8月  | 23日 | 福島県視察                      |
|      | 8月  | 27日 | 東京大学（水野准教授）調査              |
|      | 8月  | 27日 | 山形大学（横山教授）調査               |
|      | 8月  | 28日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会         |
|      | 8月  | 30日 | 宮城県自然保護課打合せ                |
|      | 8月  | 31日 | 豊田合成東日本(株)打合せ              |
|      | 9月  | 9日  | 千葉県希少生物及び外来生物リスト作成検討会      |
|      | 9月  | 11日 | 東京大学（学生）調査                 |
|      | 9月  | 11日 | 生物多様性地域戦略推進会議              |
|      | 9月  | 12日 | 宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部打合せ     |
|      | 9月  | 12日 | オオクチバス防御指針改定検討会            |
|      | 10月 | 3日  | 山形大学（横山教授）調査（～4日）          |

|      |        |                        |
|------|--------|------------------------|
|      | 10月16日 | 北部地方振興事務所打合せ           |
|      | 10月22日 | 東北大学（中嶋教授）打合せ          |
|      | 10月24日 | 栗駒山麓ジオパーク第3回保護・保全部会    |
|      | 10月31日 | 宮城県自然保護課打合せ            |
|      | 10月31日 | 栗原市農村整備課打合せ            |
|      | 11月 6日 | 自然環境研究センター（ヒアリング）      |
|      | 11月19日 | 宮城大学学生ショッカーボート調査       |
|      | 11月27日 | 大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会    |
|      | 11月27日 | 北里大学ゼミタナゴ視察            |
|      | 12月 3日 | 酪農学園大学（小川准教授）調査（～6日）   |
|      | 12月 4日 | 宮城県自然保護課打合せ            |
|      | 12月11日 | 伊豆沼・内沼ワイズユース意見交換会      |
|      | 12月11日 | 仙台第三高等学校打合せ（WEB）       |
|      | 12月11日 | 宮城大学打合せ                |
|      | 12月14日 | 筑波衛生研究所                |
|      | 12月18日 | 宮城県生物多様性地域戦略推進会議       |
|      | 12月19日 | 登米土木事務所打合せ             |
| 令和7年 | 1月10日  | 沈水植物部会                 |
|      | 1月11日  | オオクチバス防除関係打合せ          |
|      | 1月21日  | 宮城大学打合せ（WEB）           |
|      | 1月22日  | 東北地方整備局北上川流域ネットワーク打合せ  |
|      | 1月23日  | 自然再生協議会事務局会議           |
|      | 1月24日  | 第2回栗原市環境審議会            |
|      | 1月24日  | 自然再生協議会打合せ             |
|      | 1月28日  | モニタリング1000ガンカモ検討会（WEB） |
|      | 1月30日  | 東北農政局打合せ               |
|      | 1月30日  | オオクチバス防除指針検討会          |
|      | 2月 1日  | 第20回伊豆沼・内沼自然再生協議会      |
|      | 2月 4日  | 宮城県希少種会議（WEB）          |
|      | 2月 6日  | 宮城県自然保護課打合せ            |
|      | 2月10日  | 青森県平内町（ハクチョウ捕獲～13日）    |
|      | 2月14日  | 東北地方ダム管理フォローアップ委員会     |
|      | 2月15日  | 研究関係打合せ（東京）            |
|      | 2月20日  | 栗駒山麓ジオパーク第4回保護・保全部会    |
|      | 3月 5日  | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ（WEB） |
|      | 3月13日  | 栗駒山麓ジオパーク学術研究助成成果報告会   |
|      | 3月19日  | 宮城県生物多様性地域戦略推進会議       |
|      | 3月19日  | 水質勉強会                  |
|      | 3月26日  | 栗駒山麓ジオパーク第5回保護・保全部会    |
|      | 3月26日  | 栗駒山麓ジオパーク専門部会合同会議      |

## 2 共同研究及び研究援助

- (1)環境省東北地方環境事務所（鳥インフルエンザ対策）
- (2)東北工業大学（ヒシによる水質浄化に関する研究）
- (3)北里大学（ゼニタナゴに関する共同研究）
- (4)宮城大学（生物の画像分析に関する研究）
- (5)わいるどらいふ秋田（オオハクチョウの捕獲・追跡調査）
- (6)シナイモツゴ郷の会（ゼニタナゴの保全に関する研究）

## 3 出前講座の開催状況

| 開催日   | 団体名                    | テーマ                        | 参加者数 |
|-------|------------------------|----------------------------|------|
| 6月18日 | ユーユーレンティア株式会社<br>(仙台市) | 沼の環境保全問題と自然再生の<br>取り組みについて | 15名  |
| 7月16日 | 栗原市若柳小学校               | 伊豆沼の自然について                 | 81名  |
| 10月1日 | 平簡沼 水・いきもの保全隊          | 沼の生き物たち                    | 40名  |

## 4 企業による環境保全活動（社会貢献活動）

- (1)トヨタ自動車東日本株式会社
 

|        |     |
|--------|-----|
| 9月7日   | 20名 |
| 10月12日 | 20名 |
| 11月2日  | 12名 |
- (2)豊田合成東日本株式会社
 

|       |     |
|-------|-----|
| 12月1日 | 68名 |
|-------|-----|
- (3)株式会社伊藤園
 

|        |     |
|--------|-----|
| 10月26日 | 50名 |
|--------|-----|

# VII 伊豆沼・内沼自然再生事業

沼の生物多様性を回復させることを目的として、1 水生植物保全整備、2 湖岸植生保全整備を実施した。

## 1 水生植物保全整備

伊豆沼・内沼では、水質汚濁や波浪による湖岸浸食により、少なくとも42種の水生植物が消失した。そこで本事業では、今も泥中にあるこれらの植物の種子などを採って発芽させて増殖し、植栽によって沼への定着を図る復元プロジェクトを進めてきた。新たに内湖で種子を探索したところ、希少種を含む8種の沈水植物を確認した。これまでに本事業で復活させた種は前述の42種のうち26種となった。このうち、クロモ等6種、計2,394株を増殖し、沼に植栽した。植栽では、波浪や食害の影響を軽減する金属製の植栽枠を用いることで、定着数の向上を図った。昨秋に移植した植物のモニタリングの結果、多数（446株）の生育を確認した。また、伊豆沼において行った定点調査において、自然再生事業実施計画第2期2029年度の目標値を上回る約10万本の沈水植物が確認された。今後は沈水植物の群落を安定して維持するために、後述するエコトーン（浅瀬）の創出などによって沈水植物の生育環境を創出していく。

## 2 湖岸植生保全整備

抽水植物群落の保全に向けて、①ヨシ群落等の刈り払い、②エコトーン（浅瀬）造成のための柵工の設置を実施した。ヨシ群落等の刈り払いは、枯れたヨシの沼への堆積を減少させ、多様な湿生生物の生息する健全なヨシ群落を維持するため、伊豆沼北部の獅子ヶ鼻地区を中心に約1haを刈り払った。エコトーン造成のための柵工は、クロモをはじめとした沈水植物などの生息域を創出するため、板柵方式の柵工を180mにわたり造成した。既設のエコトーンでは、コツブヌマハリイなど希少種の生育、マコモの群落の拡大などの効果が認められた。

# VIII 伊豆沼・内沼よみがえれ在来生物プロジェクト事業

伊豆沼・内沼に生息している在来生物の回復に向けて、在来生物増加実証試験、外来生物対策、水生植物の適正管理及び鳥類モニタリングを行った。モニタリングを行って6種の在来生物のうち、沈水植物は2029年度の目標値を超える約10万株を確認し、ミコアイサの個体数も引き続き高い水準であった。他にも在来生物の復元活動にも取り組み、カラスガイの人工増殖や市民参加型の在来植物の植栽を実施した。また、在来植物への悪影響が懸念される外来植物のオオハンゴンソウを2地点で駆除したほか、過剰な繁茂によって水底の無酸素状態や浅底化、水質悪化などの原因となっているハス・ヒシを適正に管理するため、伊豆沼南部においてハス・ヒシ群落約24haの刈り払いを行った。刈り払った区画では溶存酸素濃度が上昇し、改善が認められた。外来生物対策として、電気ショッカーボートを用いて、在来生物に影響を及ぼすオオクチバスを112個体駆除した。オオクチバスは低密度の状態が維持されており、2024年度のオオクチバス成魚の生息個体数は257個体と推定された。また、エコトーン造成地に

において鳥類のモニタリングを行った結果、採食場所や繁殖場所としてその利用が期待されるカモ類やサギ類が確認され、エコトーンが鳥類によって利用されていることが明らかとなった。

## IX 伊豆沼・内沼ワイズユース推進基盤整備業務

本業務は、伊豆沼特有の水生生物を保全しながら、自然保護思想の普及および啓発を図ることを目的として、平成7年度に県が整備した水生植物園について、①水生植物園再整備、②利活用の推進を行うものである。

①水生植物園再整備では、7番池及び12番池の岸に栈橋型の観察足場を新たに設置し、ミズアオイ等の水生植物をより間近に観察できるようにした。また、これまでに造成した観察湿地の一部区間を拡張し、希少種であるカキツバタの群落がより広く生育できるよう改良した。これらにより、来園者がより楽しく自然観察ができる環境整備がさらに進んだ。

②利活用の推進では、水生植物園への誘導を図る案内看板をセンター駐車場と県道に面する植物園入口に設置した。これらの看板により、センター来館者だけでなく道路の通行者にも水生植物園の存在を周知できるようになった。また、環境学習を目的とした看板を昨年度の2基に加え新たに3基を設置し、水生植物園の特徴を5つの物語で分かりやすく学習できるようにした。看板にはQRコードも載せ、読み取ることで詳細な情報を随時提供できる体制を整えた。これら再整備により、来園者の数は事業実施前の令和2年度の1,413人から、令和6年度には8,238人に増加しており事業効果は着実に出てきている。

## X 外来魚遅滞相管理を目指した捕獲等業務事業

伊豆沼・内沼の生態系に深刻な被害をもたらしているオオクチバスとブルーギルについて、電気ショッカーボート、三角網、人工産卵床による駆除作業を実施した。電気ショッカーボートでは、オオクチバス成魚109個体、幼魚62個体を捕獲した。ブルーギルは捕獲されなかった。三角網によってオオクチバスの稚魚は3個体、人工産卵床ではオオクチバスの産卵床を17個駆除し、ブルーギルは0であった。昨年度よりも捕獲数が減少しており、昨年度は一度増加したものの全数として減少傾向であると考えられる。

また、水を分析するだけで魚類調査が出来る環境DNAと呼ばれる最新の調査方法も実施した。ブルーギルに関しては引き続きDNAは検出されなかった。一方、オオクチバスに関しては昨年と比較しDNA濃度が昨年の15倍程度に上昇していた。DNA分析の専門家と検証したところ、この手法は感度が高く、採水前に吹いた強風により沼底に堆積していたオオクチバスの糞のDNAが溶出しそれを検出していた可能性が考えられた。今後は分析技術の特性に配慮して調査し、捕獲結果と併せてモニタリングしていきたい。

## XI その他

### 1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会

サンクチュアリセンターの諸活動と普及発展に寄与することを目的に設立した友の会の育成強化を行った。令和6年度の会員数は、普通会员34名、家族会員12名、賛助会員5団体となっている。

### 2 伊豆沼・内沼絵画展

自然保護思想の普及啓発の一環として、伊豆沼・内沼絵画展実行委員会が主催する「伊豆沼・内沼絵画展」の開催を支援した。

＜第30回伊豆沼・内沼絵画展開催状況＞（出展作品数26点）

開催期間 令和6年12月17日～令和7年1月18日

## 別 掲

## 研 究 業 績

### ○原著論文（査読付学術雑誌）

#### 第一著者

1. 嶋田哲郎・白鳥 晃. 2024. 伊豆沼・内沼におけるシマエナガの詳細な越冬記録. 伊豆沼・内沼研究報告 18: 87-92.
2. 藤本泰文・鈴木勝利・相馬理央・内野透・中村匡聡. 2024. ヤハズヌマガイ *Buldowskia shadini* (イシガイ科) の東北地方における初確認. 水生動物, 2024, AA2024-6.

#### 共著論文

1. 高橋佑亮・神山和夫・牛山克己・鈴木 透・嶋田哲郎. 2024. ドローンの接近に対するガンカモ類等の水鳥の反応. 日本鳥学会誌 73: 3-14.
2. Liu, W., Zhang, J., Shimada, T., Liu, Y., Xie, Y., Batbayar, N., Higuchi, H., Damba, I., Cao, L., Fox, A.D. 2024. Life in the fast and slow lanes: contrasting timing of annual cycle events in high- and mid-latitude breeding Whooper Swans (*Cygnus cygnus*). Ibis 166: 1157-1171.
3. Yasuno, N., Fujimoto, Y. & Kikuchi, E. Resource partitioning among endangered and non-native bitterling fishes in a small pond: insights from stable isotope and gut content analyses. Environ Biol Fish 2024.
4. Mori, D., Hayami, H., Fujimoto, Y., Goto, I. 2024. 3D-Plotting Algorithm for Insects using YOLOv5. arXiv preprint arXiv:2401.17714.
5. Zhao, F., Mizuno, K., Shigeru Tabeta, Hayami, H., Fujimoto, Y., Shimada, T. 2024. Survey of freshwater mussels using high-resolution acoustic imaging sonar and deep learning-based object detection in the Lake Izunuma, Japan. Aquatic Conservation, 34, e4040

### ○学会発表・シンポジウム等

1. 嶋田哲郎. 2023. 鳥類の渡り追跡公開と市民科学. 日本鳥学会2024年度大会（自由集会）, 東京.

### ○委員会委員・非常勤講師など（主なもの）

（嶋田研究室長）

1. 希少野生動植物保存推進員（環境省）
  2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（ガンカモ類調査）検討委員（環境省）
  3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員（宮城県）
  4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員（宮城県）
  5. 栗原市環境審議会副会長（栗原市）
  6. 栗原市栗駒山麓ジオパーク部会長合同会議会長、保護・保全部会長（栗原市）
  7. 日本鳥学会副会長、代議員（日本鳥学会）
- （藤本上席主任研究員）
1. 希少野生動植物保存推進員（環境省）
  2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員（宮城県）
  3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員（宮城県）
  4. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員（遠野市）
  5. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員（環境省）
  6. 日本魚類学会自然保護委員（日本魚類学会）
  7. 流域環境保全ネットワーク副理事
  8. 宮城大学非常勤講師